

2021年1月

2020年2月9日発行

NPO 法人 わっか

月次報告書



26



だけれども、まるごと受けとめられる社会をつくる

わかっかは、だけれども、まるごと受けとめられる社会を目指して活動を行う団体です。

子どもを取り巻く環境について

子どもたちは、思うがままに過ごす時間や、まるごと受けとめられる経験が
少なくなっています。いまの子どもたちは、自分では変えることができない

社会環境や大人の意識の変化により「思うがまま」に過ごす時間や、

まるごと受けとめられる経験が少なくなっています。

大人の価値観による評価、他者との比較や数字で表せる結果で、

子どもの存在を条件付きで認める場ばかりになり、

さらには、地域社会においても、

その子のまるごとを受けとめてくれる存在も少なくなっています。

また、学校、学習塾、習い事、スポーツクラブで多忙な毎日を送り

仲間も時間も空間もなくなりつつあります。

「わかっか」は、2014年3月から活動をおこなっています。

活動当初は、月に1回冒険遊び場を、びわ湖のほとりで行っていました。

遊び場に来てくださる方の声に応えたくて2015年7月から、古民家の開放をはじめました。

毎週月曜日の放課後、日曜日は月に1、2回開けることから始めた古民家開放は

わかっかを通じて出会った人の声に応えるように、活動の幅を広げています。



第二十六号

目次

放課後児童クラブ さかつこクラブ	柳生のび	4
オンラインの普及による、あらたな分断	佐藤真紀	5
お弁当・おかずづくりを通じて	あすか	6
番外編 おばあちゃんに届けたご飯	だいのすけ	7
事業報告		
月ようわつか		8
平日わつか		9
かめラボ		10
日ようわつか		11
一月にいただいたご寄付		12
第四回居場所づくりサミットのご報告		13
編集後記		14
		15



さかっこクラブでの一コマ

放課後児童クラブ さかっこクラブ 柳生 のび

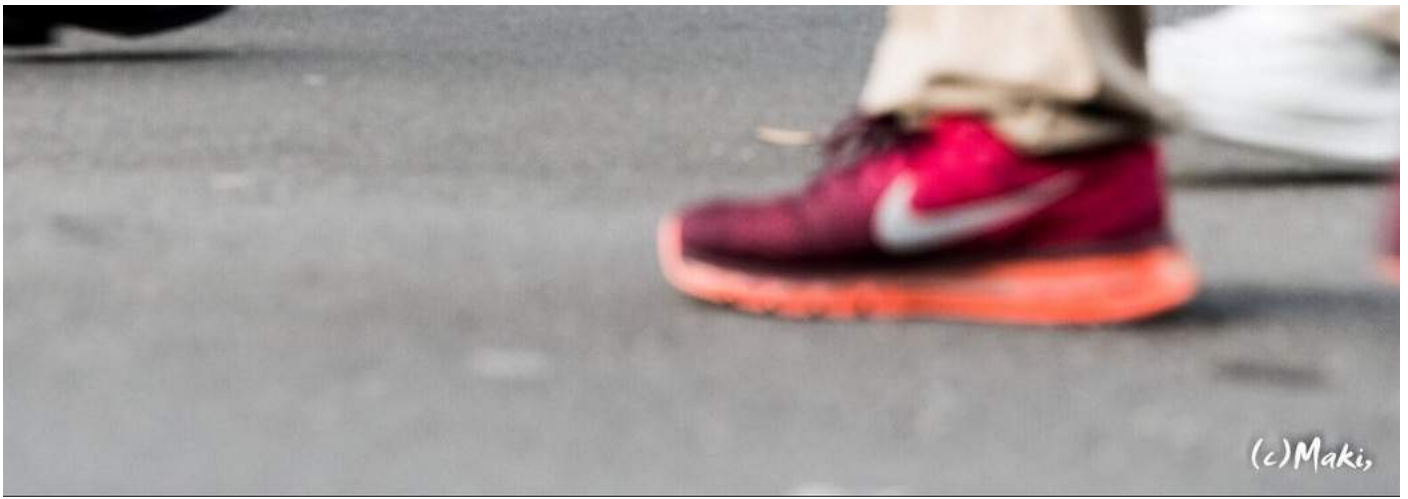
さかっこクラブでは、「期待しない保育」を保育指針のテーマに掲げ、日々子ども達と向かっています。その具体的な柱として①「子どもと一人の人間として向き合う保育」、②「選択の自由を保障する保育」、③「子ども文化を育む保育」を掲げています。①については、これまでも何度か伝えてきました。今回は②について、少しお伝えできたらと思います。

日常の生活で選択は常にあります。朝起きて、何からするか、顔を洗うのか、トイレに行くのか、外の空気を吸いに出るのか、やることは沢山あって、選択はいくつもあります。それが日々の一コマ一コマで常に起こってきます。でも、スケジュールを決めていけば、毎日やること、それこそ朝起きてやることは決まってくるのではないかと思うかもしれませんが、それは、実は違います。人が同じ選択をすることは、人生において一度たりともないのです。なぜか。簡単に言えば、今日という日は二度と訪れないからです。だから、同じ選択をしているつもりでも、同じ状況で選択をしていることは一度たりともないのです。だからこそ、この瞬間の選択は一期一会とも言えるもので、とても大切な瞬間であり、選択なのです。

その大切な選択の瞬間を、子ども達が自分の意志で、できるだけ納得をして、選択するを判断することを保障できる環境をボク達がつくろうと努力しています。少なくとも、その子がやりたいと思ったことを声に出して「やりたい！」と言って、実行できる環境があることが大切だと考えています。「やりたい！」となっても、実際にやるかどうかはわかりません。それはその子次第です。内容によっては、やらせてあげることができない可能性もあります。でも、そもそもやろうとする意志すら最初から否定する環境では、やるやらないの選択すらできません。

特に、ボク達が保育で意識しているのは、やらない選択を保障することです。クラブでは、様々な企画や行事を実施することがあります。その際に、子どもが参加するもしないもよしとすることを大前提に実施しています。企画や行事を楽しいと思ってくれる子ども達もたくさんいます。でも、やりたいくないと思う子ども達も一定数います。もしくは、普段ならやるけど、その時は気分がのらなくてやりたくない場合もあるでしょう。そんな個々の選択を大切にできるようにしています。

選択の自由を保障する保育はまだまだはじまったばかりです。もっともっと子ども達から学びながら、わたし達大人がどのように振るまうことがそういう環境をつくることになるのか実践を続けていきたいと思えます。



(c)Maki,

オンラインの普及による、あらたな分断

佐藤真紀

この一年で zoom をはじめとしたオンラインコミュニケーションが一気に普及した。それは、iPhone が日本で普及し始めた一〇年前と同じく、新たな分断を生んではいないだろうか。iPhone が普及し始めたころは、ガラケーとスマートフォンとの分断が生まれた。これはいわゆるデジタルデバイスと言われる「」を使える人と、使えない人との間に生じる格差として言葉が作られてきた問題でもある。

デジタルデバイドはあらゆる場所で起きている。たとえば、保育園の保護者同士でも情報源をテレビからしか得ない保護者の方や、Instagram、Twitter をはじめとした SNS だけでなく、積極的に EC サイトを活用して生活に取り込んでいる保護者もいる。若者たちも同じく、スマートフォンは低廉化し普及しているものの、その活用方法には大きな差が生まれている。第一次デジタルデバイスが物理的な格差としたら、活用能力とレベルにおける格差は第二次デジタルデバイスと言われている。どうして格差が生まれるのだろうかというデジタルデバイスそのものの先行研究は九〇年代から行われており、多分にしつくされているので、ここで改めて述べることはしないが、多くはインフラ整備に留まってきた。

私はわっかにいるときは、ぼーっとしているだけであるが、ライフワークとしてのさまざまな方の生活のサポートに携わっている。時には、支援機関さんへとおつなぎするときや、制度を使うこともあるが、よく出会うのが〇〇代以上でメールの出し方に困難が出ているということ。たとえば、タイトルの部分に本文をすべて入れたり、あて名がなかったり、名乗りがなく、誰から来たメールなのかわからなかったり。ふと、どうしてそういう状態のメールが多いのだろうと考えることがある。ここからは仮説になるけれど、そもそも学んでいないということ、デバイスがスマートフォンであるからではないかということだ。今の30代後半は、Windows95 が中学校に導入されるか、されないかの時代に中学生だった。その当手を想起すると、学校のインフラはネットにつながっていたとしてもメールの打ち方はもちろん行われず、せいぜいワードやメモ帳、ペイントをすこし触る程度だった。誤解がないように記載しておくが、apple の Macintosh は普及していなかったし、コマンド打ちが普通だった時代から少し年月が経っただけで、教員もパソコンを触ったことがない人たちが大半だった。そうした環境下で育ち、パソコンをはじめとした「」機器に触れる必要がない生活を送っていると、ビジネスメールの出し方や定型は学ぶ機会がないのだ。そして、スマートフォンは普及したものの、「」が進化し簡単にメールを出せるようになった反面、プロトコルを学ぶ機会がないと齟齬が起きているのだ。そして、使えない人と、の分断を深める。

最近、爆発的に普及し始めた Clubhouse は音声のみの SNS だ。ただし、すべて英語である。つまり、英語が読めない人と正しく使用できない。ここでも分断が起きる。Clubhouse に関しては、別の場所の記事として配信したが、このところ、そうした社会の「分断」をどうすれば解消すればいいのか頭を悩ませている。社会の分断は、今回例に挙げたデジタル機器だけでなく、あらゆる領域で起きている。私はそうしたものを少しでも平らにしたいと思っているが、なにかアイデアがあれば、真紀まで寄せてほしい。一緒に社会の分断について考えよう。

さとうまき @19hz (Twitter)

現場から現代社会を思考する/ロビイストのロジ担/ファシリテーター/エンジニア→ソーシャルワーカー(社会福祉士|精神保健福祉士)/地域:東京,岐阜,滋賀/領域:地方自治,若者,子ども,虐待,生活困窮,学校,女性,LGBTQ/



新年初お弁当一。にんじんは梅の形だよ。七草のオムレツと→



→七草と百合根のあえ物も添えて1月7日を意識してみたり。



つながりが、ほそーくなった若者のテンションをあげるため→



→パン作り。なぜパンって？だって女子ってパン好きじゃん！

わっかとあすの木 @wacca_asunoki (Instagram)

いままでのお弁当は、わっかホームページの Instagram で見てね。

番外編 おばあちゃんに届けたご飯 だいのすけ



毎週金曜日におばあちゃんにも届けているお弁当。あすかが、ご飯を作るこ
とができない日は、だいのすけがお弁当を作って、おばあちゃんに届けま
す。

いつもお弁当を届けると、そこで、お弁当の中身をみて話をします。「お魚
うれしいなあ」とか「綺麗につくってくれているわ」と。そんなやりとり
が、楽しくって毎週届けています。

先日届けにいったとき「あんた暇か？」と尋ねるので「暇ですよ。めっちゃ
暇です」と答えると「頼み事されてくれんか？」と近所に、あるものを取り
に行つて欲しいと言われたので、そのまま取りに行きました。

物をもって伺うと「ありがとう、こらえてな」と何度もお礼をいってください
る。「暇ですから」と言うと笑ってくれる。

こうやって、お願いをしてもらえるようになってきたのが嬉しいです。毎週
持っていつているからこそかなと思います。

毎週 月よう日 15:30 ~ 20:00

子ども **22** 名 (**16** 名) おとな **8** 名 (**1** 名)

月ようわっか

() 内の人数がご飯を食べた方持ち帰りも含む

毎週月よう日の放課後に必ずひらかれる場です。参加費無料・申込不要。カリキュラムやプログラムは一切なしで「ルールがない」がルールです。子どものみちくさできる場所、子どものたまり場として場をひらいています。

4日 子ども **6** 名 (**1** 名) 大人 **4** 名 (**0** 名)

メニュー：ごはん、七草の味噌汁、七草オムレツ、チキンステーキ

11日 おやすみ

18日 子ども **6** 名 (**5** 名) 大人 **1** 名 (**0** 名)

メニュー：ごはん、大根と油揚げの味噌汁、肉野菜味噌炒め

25日 子ども **10** 名 (**10** 名) 大人 **3** 名 (**1** 名)

メニュー：ごはん、白菜とえのきの味噌汁、肉じゃが、チンゲンサイと舞茸の中華炒め



平日わっか

毎週火～金よう日に開いている場です。参加費無料・申込不要。月よう日と同じように、カリキュラムやプログラムは一切なしで、ただ開いている場です。そんな場所に集う人たちと、ゆったりとした時間を過ごしています。



自分のしているゲームを見せてくれる子がいます。見てみると遊んでいるのはスマブラ。

彼が遊んでいる画面を説明をしてくれるんだけど、聞いていだけではボクも楽しくないので、「一緒にやらせてよ」と言うと「いいよ」と言って、コントローラー（めっちゃ小さい）を渡してくれるので一緒にします。

「やり方わかる？」と聞いてくれるので、「わからんけど大丈夫な気がする」と言い対戦をはじめます。少年、めっちゃ強い。もう動きに目が追いつかず、何が起きているのかすらわからない。

それでも対戦していると「技しらの？」と技一覧を見せてくれる。技がでると「おお！」と声をあげてくれる。そのうち「いまっ」とか「こうすんねん」と戦うコツみたいなのを教えてくれる。

だんだんボクの動かすピカチュウの動きがよくなってくると嬉しそうに「できたやん」と言ってくれる。

先月に引き続きゲームのお話になりましたが、子どもたちと一緒にするゲームは、とってもたのしいですよ。

（だいのすけ）

かめラボ

子どもたちの「〇〇したい」にできる限り全力で応える場。ある少年は「教員の人事異動を予想するプログラムをつくりたい」と言いました。いまは、姫路城が好きな少年が、マインクラフトで姫路城を作成するのを応援しています。



本や文房具の寄付をたくさんいただきました。来ている子どもたちも知らない本だったようで気になるのか読んでくれました。いただける寄付は、こうやって活動を充実させてくれます。本当にありがとうございます。



1月29日は雪が夕方から降り始めました。いつも来ている方から「雪だけあいていますか？」と電話があり、「あいていますよ」とお答えするといつものように来てくれました。帰り際、さらに積もっている雪をみて、「積もったねー」と子どもたちと喋る。そういえば、雪がふったことあったねと思い出になったらいいな。

ときどき 日曜日 10:00 ~ 15:00

子ども **13** 名 おとな **9** 名

日ようわっか

月に1回程度、お昼に古民家を開放しています。お休みの日なので、ここに、くるのは小学校高学年まで、親子連れが中心です。親子できていた子が大きくなったら一人で「月ようわっか」にくるといふこともあります。



2021年1月に頂いたご寄付

物品でのご寄付 **5** 名 (団体) 敬称略

- ・ 4日 お菓子・醤油 (青岸寺)
- ・ 5日 お菓子 (匿名希望)
- ・ 7日 おやつ (おてらおやつクラブ)
- ・ 7日 おもち (米原市社協)
- ・ 10日 書き損じハガキ (お二人)
- ・ 18日 書き損じハガキ (鈴木)
- ・ 18日 書き損じハガキ (佐藤)
- ・ 19日 本 (紙 eco)
- ・ 19日 おもち (米原市内の方)
- ・ 19日 書き損じハガキ、商品券 (匿名希望)
- ・ 24日 みかん、本 (匿名希望)
- ・ 24日 古着 (常連さん)
- ・ 25日 書き損じハガキ (匿名希望)
- ・ 29日 豆、りんご (おばあちゃん)



マンスリーサポーター **27** 名

大溪麻紀子、後藤基志、マコトヤ、佐藤真紀、佐藤桃子、廣部奈緒美、前田諭、藤澤彰祐、石田智子、佐藤笑代、三輪恵美、南出吉祥、柴原隼、鈴木愛子、荒巻りか、吉田尚子、永峰美佳、津田千恵子、べっかむ (敬称略)

都度ご寄付 **2** 名

1000円 (日ようわっかで)、500円 (日ようわっかで)

助成・補助団体、応援企業 **14** 団体

米原市、独立行政法人 福祉医療機構、リタワークス株式会社、真如苑、いっぽまえクラブ
社会福祉法人 米原市社会福祉協議会、公益財団法人 信頼資本財団、タノシニア合同会社
一般社団法人 全国食支援活動協力会、公益財団法人 さわやか福祉財団、マコトヤ、紙 eco
社会福祉法人 滋賀県社会福祉協議会、NPO 法人 全国こども食堂支援センター・むすびえ
(敬称略 2021.2.8 現在)

第4回居場所づくりサミットのご報告

参加者 **38** 名



1月31日に『第4回居場所づくりサミット』を開催することができました。Zoomのウェビナーという機能（対談者のみ画面に表示される）を用いて行ったので、聞いてくださっている方の反応が見えなかったのが例年と大きくことになりましたが、それでも初めてのことでしたが、問題なく終わられたことがよかったです。

参加者の方にお願ひしたアンケートの中には今後の改善点として「50分3コマ+アフタートーク」という対談形式に関して

- ・ 3コマが多い
- ・ アフタートークはなくてもよかった

などのご意見をいただきました。

次回、5回目もオンラインで開催することになりそうですが、そのときの改善点として反映させていただきます。



編集後記

新年二回目の月次報告書ですが、内容としては今年のはじまりの一月を報告するものになりました。三十一日に行った第四回居場所作りサミットの参加者の方から頂いた感想で印象的だった言葉があります。それは、

何年も活動されてる皆さんが、悩みながら揺れながら続けられている姿が身近に感じましたし、自分の活動もこれでいいじゃんと言葉も頂きまし
た。というものです。

きつとこういう活動だけでなく、人と関わることをされている方たちは、みなさん悩みながら揺れながら活動をされているんだと思います。(ちがつたらすみません)

そして、それでいいのか？もつときちんとしなきゃと思ったり、それでも時々、まあ、このままいいんじゃないかと思えるときがある。そんな感じなのかなと思っています。

だから、こうやって同じ思いで活動をしている人がいる、自分だけじゃないんだと思えると、揺れながら、そういうものにしんどくなりながらも、日々の活動や仕事をしていけたりするんだと思います。

少なくともボクは同じ思いの人たちと繋がれたことで、すこし気持ちが楽になっています。

(だいのすけ)

これからも活動をさらに充実していくために

27名のマンスリーサポーター、クラウドファンディングや資金でのご寄付をくださる方、SNSを通じていただく応援によって、活動を継続することができています。ありがとうございます。

いまの活動を継続すること、さらには古民家をあける時間を少しでも長くすること、個別の関わりを充実させていくために資金を必要としています。また、関わるスタッフが現在、ボランティアで行っている古民家開放や若者との生活・就労サポートに、より集中できる環境をととのえるため、来年度は、さらに300万円のご寄付を必要としています。

これまでの7年間の活動で、古民家に集ってくださる方がいます。また、集う時間以外でも、古民家の存在に安心しているといた気持ちをお届けいただいています。また、しんどさを抱えている方への個別のサポートも行えています。

わかかの運営は、みなさんのご寄付で支えられています。ぜひ月1000円から応援できる「わかかマンスリーサポーター」に参加していただけないでしょうか？ご寄付は古民家の運営費、個別のサポート等にさせていただきます。

マンスリーサポーター登録ページ

<https://www.congrant.com/project/wacca/724>



団体名	NPO 法人 わっか
住所	〒521-0012 滋賀県米原市米原 178-5
電話	070-1803-1059 (代表)
メール	wacca235@gmail.com
ホームページ	https://npo-wacca.org
Facebook	 こどもと大人の居場所 わっか
Twitter	 アカウント名 @NpoWacca
Youtube	 アカウント名 NPO 法人わっか振角大祐